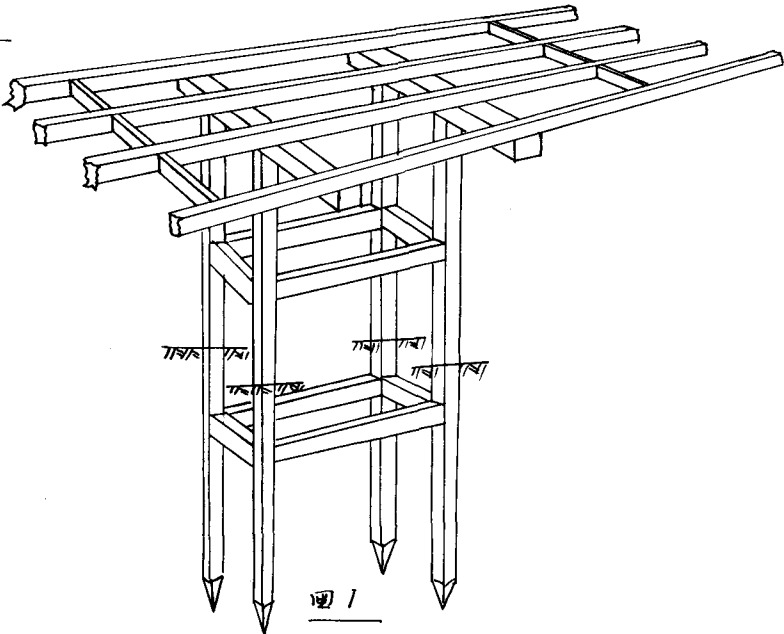


信州大学 正員 谷本勉之助
 " 員日正太郎
 ○学童員 柄沢安衛

1. 序文

本解析は、骨組橋脚と一体になった格子構造物を、漸化変形法を用いて、土体解析したものである。格子と橋脚は、作用・反作用の力で結び合っているものとする。まず立ち上り橋脚に、格子からの作用力を考え、力釣合方程式を解き、格子の解析において、橋脚との接合部の漸化方程式に前の力を反作用としてとりこみ、橋脚と結合させて解析するものである。本法は、格子が剪断力だけで橋脚と結合している場合でも有効である。

2. 解析



構造モデルとして、図1の様なものを考えることにする。また、力釣合式の漸化式は、橋脚においては上から下へ、格子においては、左から右に行うことにする。まず、状態ベクトルにおいて、一般変位量と力量は、次のように書ける。

$$\begin{aligned} \mathbb{U}(P) &= \{ u \quad v \quad w \quad \phi_x \quad \phi_y \quad \phi_z \}_p \times = P(P) \times \\ \mathbb{V}(P) &= \{ \bar{r}_x \quad \bar{r}_y \quad \bar{r}_z \quad \bar{t}_x \quad \bar{t}_y \quad \bar{t}_z \}_p \times = Q(P) \times \end{aligned} \quad (1)$$

ただし、地上部分のたわみ量は $w = [P \ P \ P] \mathbb{U}$ であり、地中部分は $w = [e^{i\alpha_0 p} \ e^{i\alpha_{10} p} \ e^{i\alpha_{20} p} \ e^{i\alpha_{30} p}] \mathbb{U}$ である。式(1)から \times (固有マトリックス) を消去して、完全状態ベクトルを導くと、

$$\begin{bmatrix} \mathbb{U}(P) \\ \mathbb{V}(P) \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} \alpha(P) & \beta(P) \\ \gamma(P) & \delta(P) \end{bmatrix} \begin{bmatrix} \mathbb{U}(0) \\ \mathbb{U}(1) \end{bmatrix} + \begin{bmatrix} P_1(P) \\ P_2(P) \end{bmatrix} \quad (2)$$

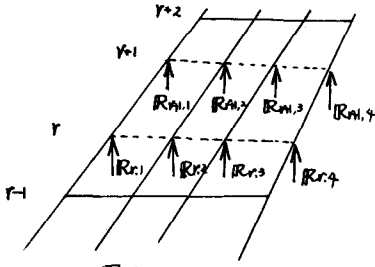


図 2

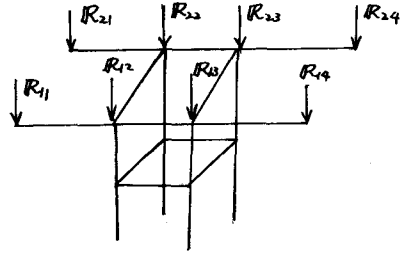


図 3

橋脚の節点の力の釣合は式(2)から $V(P)$ の式だけとり出して来る 射影変換をした後にまとめると、次の式となる。

$$\begin{bmatrix} -\lambda_1 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & -\lambda_2 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & -\lambda_3 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & -\lambda_4 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} W_1 \\ W_2 \\ W_3 \\ W_4 \end{bmatrix} + \begin{bmatrix} 0 & M_2 & M_3 & 0 \\ \lambda_1 & 0 & 0 & M_4 \\ -\lambda_1 & 0 & 0 & M_4 \\ 0 & -\lambda_2 & -\lambda_3 & 0 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} W_1 \\ W_2 \\ W_3 \\ W_4 \end{bmatrix} + \begin{bmatrix} M_1 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & M_2 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & M_3 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & M_4 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} W_1 \\ W_2 \\ W_3 \\ W_4 \end{bmatrix} + \begin{bmatrix} P_1 \\ P_2 \\ P_3 \\ P_4 \end{bmatrix} = 0 \quad (3)$$

よって集積して

$$\begin{bmatrix} B_1 & C_1 \\ A_2 & B_2 & C_2 \\ & A_3 & B_3 & C_3 \\ & & & \dots \\ & & & & A_m & B_m \end{bmatrix} \begin{bmatrix} \{W\}_1 \\ \{W\}_2 \\ \{W\}_3 \\ \dots \\ \{W\}_m \end{bmatrix} + \begin{bmatrix} \{P\}_1 \\ \{P\}_2 \\ \{P\}_3 \\ \dots \\ \{P\}_m \end{bmatrix} + \begin{bmatrix} \{R\}_1 \\ \{R\}_2 \\ 0 \\ \dots \\ 0 \end{bmatrix} = 0 \quad (4)$$

また $\{R\}$ に関しては

$$\left. \begin{aligned} \{R\}_1 &= -B_1 \{W\}_1 - C_1 \{W\}_2 - \{P\}_1 \\ \{R\}_2 &= -A_2 \{W\}_1 - B_2 \{W\}_2 - C_2 \{W\}_3 - \{P\}_2 \end{aligned} \right\} (5)$$

$$\{R\}_r = \{R\}_1, \quad \{R\}_m = \{R\}_2 \quad (6)$$

式(4)と式(6)から式(4)の $\{W\}$ についての方程式にして 次の格子の連立方程式に代入する。

$$\begin{bmatrix} B_1 & C_1 \\ A_2 & B_2 & C_2 \\ & A_3 & B_3 & C_3 \\ & & \dots \\ & & & A_m & B_m \end{bmatrix} \begin{bmatrix} \{W\}_1 \\ \{W\}_2 \\ \{W\}_3 \\ \dots \\ \{W\}_m \end{bmatrix} + \begin{bmatrix} \{P\}_1 \\ \{P\}_2 \\ \{P\}_3 \\ \dots \\ \{P\}_m \end{bmatrix} + \begin{bmatrix} 0 \\ 0 \\ \{R\}_1 \\ \dots \\ \{R\}_m \end{bmatrix} = 0 \quad (7)$$

よって

$$\begin{bmatrix} B_1 & C_1 \\ A_2 & B_2 & C_2 \\ & A_3 & B_3 & C_3 \\ & & \dots \\ & & & A_m & B_m \end{bmatrix} \begin{bmatrix} \{W\}_1 \\ \{W\}_2 \\ \{W\}_3 \\ \dots \\ \{W\}_m \end{bmatrix} + \begin{bmatrix} \{P\}_1 \\ \{P\}_2 \\ \{P\}_3 \\ \dots \\ \{P\}_m \end{bmatrix} = 0 \quad (8)$$

を解ける。

3. あとがき

本解析は小型行列による組みあわせで複合構造物を解こうとしたものである。そのため大型インバースは不要であり、立体ラーメンと立体格子を別々に解き、組合して三軸マトリックスにしたものであるから、良い精度が期待できる。

参考文献

福岡, 豊吉, 谷本, 豊且, 石川「演算子法による剛体板下の基礎杭の立体解析」26回建築集